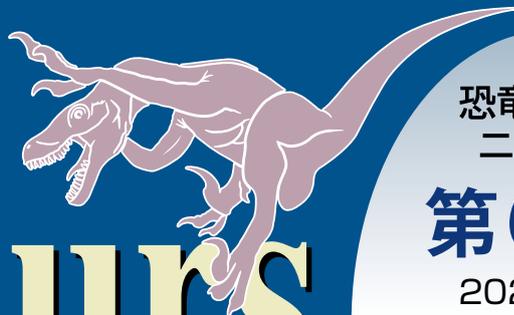


恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

第67号

2023.1.16

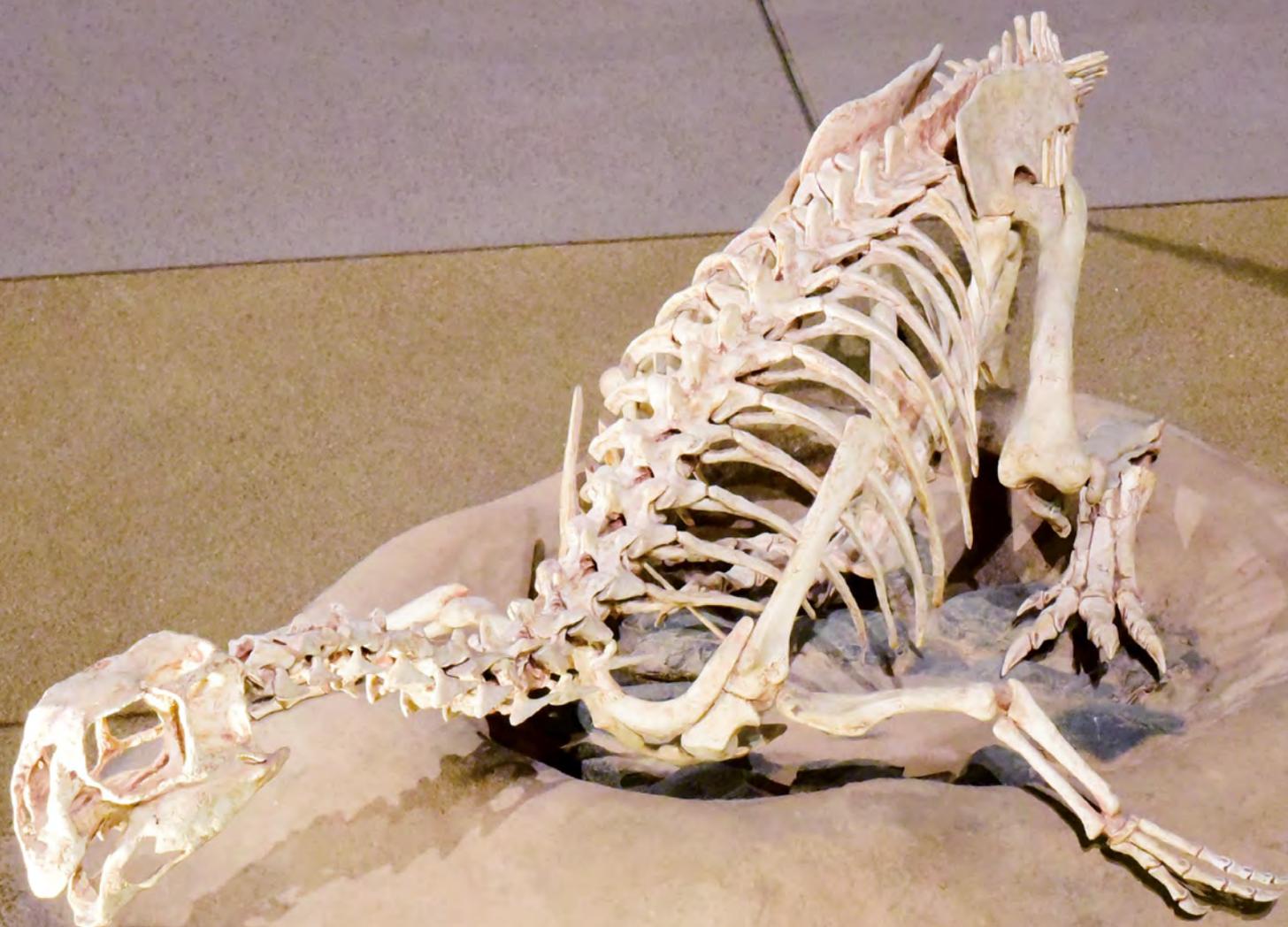
福井県立恐竜博物館

特集：恐竜博物館この一年のあゆみ～2022年度恐竜博物館の動き～

目次 ▼博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ～2022年度恐竜博物館の動き～」…2～4

▼博物館学びの講座紹介／おすすめ標本紹介…5 ▼研究員のページ…6～7

*リニューアル工事のため今年の夏まで臨時休館中



コンコラプトル・グラシリス

Conchoraptor gracilis

竜盤目 獣脚亜目 オビラプトロサウルス類
後期白亜紀
モンゴル国

「貝の略奪者」という意味の名前をもち、鳥に近縁で抱卵していたと考えられている恐竜です。この骨格は抱卵姿勢で復元されています。



恐竜博物館この1年のあゆみ

2022年度 恐竜博物館の動き

Looking back the 2022 events of the FPDM

「恐竜の日」イベント

4月17日の「恐竜の日」に因んで、福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」に恐竜五月人形をお披露目してもらいました。



恐竜五月人形とジュラチック

この他、当館研究員による特別講演会「恐竜の入り口」の開催や、来館されたお客様全員へオリジナルグッズのプレゼントを行いました。

野外恐竜博物館

開館9年目の野外恐竜博物館を、4月21日(木)に再開し、市内の小学生による出発式と掘り始め式を行いました。



掘り始め式の様子

今年は大雨による被害のため、期間の途中でツアーを中止する事態となり、営業期間は8月3日(水)までの99日間(過去最短)となりました。その間に利用されたお客様は17,617人で、通算の利用者数は、約26万人と

なりました。2023年度は、本館のリニューアルオープンにあわせて再開する予定です。

「恐竜こいのぼり」掲揚と雪山お披露目

福井の新種の恐竜5体で仕立てた「恐竜こいのぼり」の掲揚と雪山のお披露目を来館されたお子様に行ってもらいました。子どもたちは空を泳ぐ恐竜こいのぼりと初夏の雪山を楽しんでいる様子でした。



恐竜こいのぼりと雪山で遊ぶ子どもたち

ワニ形類上顎骨化石発見

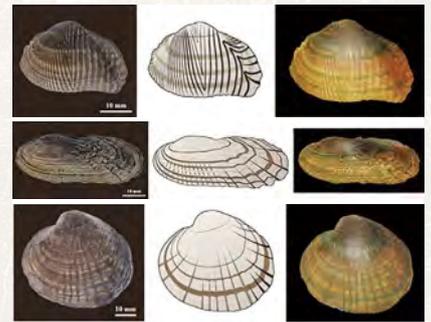
勝山市北谷町の恐竜化石発掘現場からは多くの脊椎動物化石が発見されていますが、2021年度の調査で歯が付随したワニ形類の上顎骨化石が新たに発見されました。日本ではまだ知られていない特異な歯の形態をしているため、日本古生物学会で発表しました。



ワニ形類上顎骨化石

淡水二枚貝化石の模様を解明

勝山市北谷町の恐竜化石発掘現場で発見された貝化石3種に生きていた当時の色彩模様が保存されていることが判明しました。淡水二枚貝化石に模様が保存されている例は世界的にも珍しく、今回の報告は世界最古で日本初、かつ世界で2例目の事例となりました。



恐竜眼鏡製作記者発表、恐竜眼鏡贈呈式、おしゃれ恐竜博士のお披露目および三国提灯の点灯式

開館記念日である7月14日(木)に当館監修の恐竜をモチーフにした眼鏡「DiiINO」の製作記者発表を行うとともに、同シリーズを参考に作られた恐竜博士用の恐竜眼鏡を贈呈していただきました。同時に、おしゃれにラッピングされた恐竜博士のお披露目も行いました。



恐竜眼鏡贈呈式

また、福井県郷土工芸品に指定されている「三国提灯」で恐竜博物館バージョンの提灯を制作し、点灯式を行いました。



三国提灯点灯式

野外恐竜博物館ツアー 参加者が通算25万人を突破

2014年7月19日(土)にオープンした野外恐竜博物館のツアー参加者が、7月18日(月・祝)に通算25万人を突破しました。

9時出発のツアーに参加する小学生と福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」がくす玉を開いてお祝いしました。



セレモニーの様子

第四次恐竜化石発掘調査

勝山市北谷町の発掘現場において、7月25日(月)から8月3日(水)まで、2022年度の第四次恐竜化石発掘調査を実施しました。同調査は、2013年からスタートし、今年度が10年目になります。9月3日(土)まで実施する予定でしたが、大雨の被害により期間の途中で発掘調査中止となってしまいました。

【恐竜化石発掘調査】

○期間：2022年7月25日(月)
～8月3日(水)
(本来は9月3日(土)までの予定)
○調査地：勝山市北谷町杉山



発掘調査現場

「恐竜女子学院」開校

恐竜に興味や関心を持っている女子児童・生徒を対象とした「恐竜女子学院」を7月29日(金)、30日(土)の2日間にわたり初めて開催しました。

21名の参加者は積極的に講師に質問するなど、特別授業や特別実習に一生懸命取り組んでいました。



特別授業の様子

通算入館者数 1200万人突破

2000年7月14日の開館以来の通算入館者数が8月12日(金)に1200万人を突破し、8月13日(土)に「1200万人をお祝いする会」を実施しました。

ご来館の子どもたちと福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」がくす玉を開いてお祝いしました。



セレモニーの様子

3年ぶりに 入館者数が50万人超

10月12日(土)に年間入館者数が、3年ぶりに50万人を超え、ご来館の子どもたちと福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」がくす玉を開いてお祝いしました。



セレモニーの様子

「ダイノ・ハロウィン」開催

10月29日(土)から31日(月)まで「ダイノ・ハロウィン」を開催しました。期間中は仮装してこられた方へのプレゼントや30日(日)にはミニコンサートも実施し、たくさんの方に楽しんでいただきました。



ミニコンサートの様子

臨時休館前の ファイナルイベント

11月19日(土)から12月4日(日)までの土日祝日に、ファイナルイベントとして、小学生以下のお子様へオリジナルシールのプレゼントや福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」によるお客様のお出迎えを行ったほか、12月4日(日)には「研究員に質問してみよう」を開催し、お客様が研究員に質問できる貴重な機会となりました。



研究員に質問してみよう

年間入館者60万人超

臨時休館前の最終営業日となった12月4日(日)に、年間入館者が60万人を超えました。ご来館いただいたお客様への感謝の気持ちと60万人突破のお祝いの気持ちを込めたくす玉をご来館の子どもたちと開きました。



セレモニーの様子

(高山 泰昌、松山 知美)

恐竜博物館のリニューアル工事



新館ウェルカムゾーン完成予想図

来年夏のオープンを目指して恐竜博物館の機能強化整備を行っております。現在は増築部分の躯体工事が進められており現時点では概ね順調に進捗しております。また、工事用仮囲いにリニューアル内容の情報・紹介や福井の5体の恐竜をPRするラッピングを施し多くのお客様をお出迎えしました。

12月5日から臨時休館とし、既存棟部分の改修工事も本格的に着手しております。



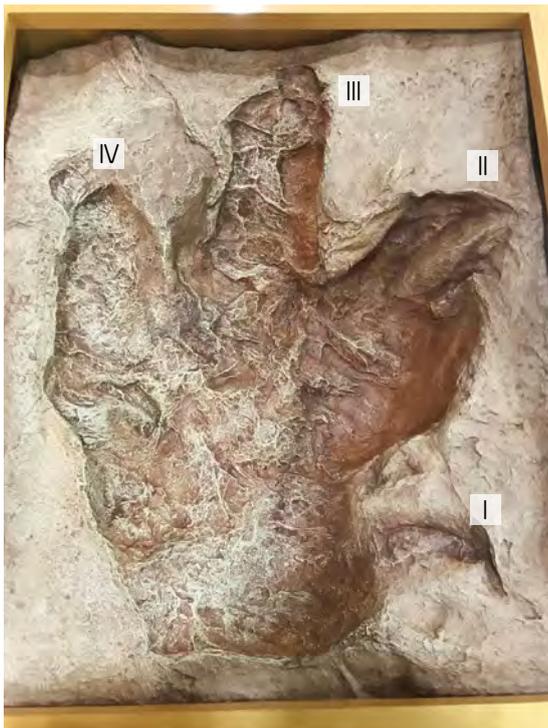
工事用仮囲い

植物や昆虫といった生物そのものが化石になることはよく知られていると思いますが、生物が残した跡が化石になることは、恐竜の足跡化石やウンチの化石などを除いて、あまり知られていないこととされます。葉を昆虫が食べた痕が化石となり、そこから昆虫と植物との関係や昆虫の生活の一部を垣間見られることを紹介し、また、そういった研究分野があることを知っていただくのが狙いでした。

今回ご紹介した化石は、資料館の展示室で“保存の良いシダ化石”として30年以上展示され続けていたのですが、私たちの研究で展示している標本の再評価をすることができたというケースになります。化石のことだけでなく、長年標本を保管することの大切さも分かっていただけたのではないかと思います。(湯川 弘一)



恐竜などの化石は、体のほんの一部しか見つからないことがほとんどです。それでも、古生物学者たちはなんの骨かを言い当てることがあります。恐竜に限らず、骨の中にはその動物が持っている特徴が強く現れるものがあり、たまたまそのような骨が見つかり、骨の正体がわかるのです。この教室では、古生物研究の基礎である「観察」のノウハウを知ってもらうために、現在生きている動物の骨を使って、どんな骨かをクイズ形式で当ててもらいました。組み立て骨格が何体もあり、同じ動物の骨の一部を「問題」とします。はじめは戸惑いながらも、次第に白熱して、「ここかな?いや、ちがうよ」などと言いながら、親子ともども骨の観察に熱中していました。(一島 啓人)



ティラノサウルスは最大級の獣脚類として知られていますが、その足跡も獣脚類では最大級だったとされています。福井県立恐竜博物館ではダイノラボでその足跡化石のレプリカを見ることができます。

この足跡化石はアメリカ・ニューメキシコ州の白亜紀末期の地層から見つかりました。ティラノサウルスの足跡と呼ばれているのは、この足跡が見つかった地層と同じ時代・地域の地層からはティラノサウルス以外の大型獣脚類が見つかっていないためです。ちなみに、恐竜の足跡化石はその形態にもとづいて独自の学名が与えられることがあり、この足跡化石は1994年にティラノサウルプス(“ティラノサウルスの足跡” という意味)と命名されています。

足跡の第III趾(中央の一番長い指、人の中指にあたる)の爪先から足跡の後端までの長さが約86cmあることから、この足跡を残した恐竜の全長は10m以上と推定されています。また、獣脚類の足跡化石は通常3本指ですが、この足跡は足が深く地面に食い込んだため普段は地面につかない第I趾(手前の一番短い指、人の親指にあたる)の痕も残されています。ダイノラボではこの足跡化石のすぐそばにティラノサウルスの全身骨格も展示されているので、ぜひ足の骨格と足跡を見比べながら展示をご覧になってみてください。

(築地 祐太)

イグアノドンの親指の謎

主任研究員 柴田 正輝

イグアノドンは、1842年にイギリスの解剖学者リチャード・オーウェンにより恐竜類という分類群が提案されたときの3種の恐竜の1つです。そのため非常に古くから知られており、ヨーロッパでは多くの個体が発見され研究が進んでいる恐竜です。しかし、未だ解決されていない大きな謎が1つあります。発見当初は、鼻の上の角と考えられていた、親指。そう、あのサムズアップをしているスパイク状の爪です。

それは、イグアノドンの唯一の“派手な”特徴と言えるのではないのでしょうか？確かに、多くの歯を備え、頬があり植物を咀嚼できるという、恐竜の中では非常に特化した特徴を身に着け、その仲間は最終的にハドロサウルス類へ進化し、白亜紀末まで繁栄した恐竜たちです。しかし、角竜類や堅頭竜類のように装飾は持たず、ヨロイ竜類のように体に身を守る術をもたない、馬のような顔つきのなんの変哲もない恐竜。

その姿で最も奇妙なのが、この親指です。尖った円錐の大きな一塊。



オーウェンが復元したイグアノドン
(尖った親指が鼻の上の角として復元されている)
[イギリス クリスタルパレスパーク]



イグアノドンの全身骨格



イグアノドンの右手

この特徴は、アンキロボレクス類(ankylo=“曲がる”が本当の意味ですが、医学用語のankylosisから“癒合して強直した”、というような意味で使われる、とpollex=親指)という、イグアノドンを含む進化したグループの名前にもなっています。

どのような役割を果たしていたのでしょうか？

絶滅した動物の生態を考えると、現在生きている動物で同じような形態をもつ動物から推測します。しかし、現生の動物に同じような親指を持つものはいません。パンダには、6本目の指と言われる親指の付け根に指状の突起がありますが、これは手首の骨が形を変えたものであり、本当の指ではありません。イグアノドンのこの親指について、諸説ありますが、ここでは有力だと思われる2つについて紹介します。

① 武器

鋭い親指の骨は、生きていたときには、更に鋭く尖った角質(爪)で覆われています。短剣のように鋭い武器となり、捕食者から身を守るために利用したとする説です。4足歩行をすることもあるほど強靱な前肢なので、攻撃力はあったかもしれません。

当館が共同調査をしている、タイ

王国のコラート化石博物館（ナコンラチャシマ）には、イグアノドン類（現在はシリントーナ）がアロサウルス類（現在は шамラプトル）を親指で撃退しているようですが、実物大より大きなサイズで復元されています。本当にこのような光景が繰り広げられていたのでしょうか。

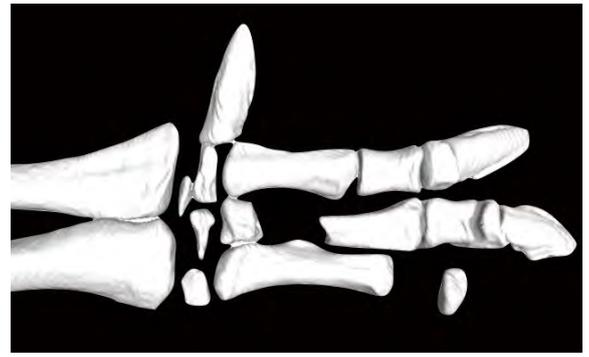
② 道具

咀嚼できるイグアノドンは、硬い植物でも口のなかで小さくすり潰すことができました。そのため、他の恐竜たちが食べることができない硬いものまで食べることができたと考えられます。それに加え、この鋭い親指で、種や果実を切り裂き、中の実を食べることができたとする説です。想像してください、このあまり器用そうには見えない手で、果実を切り裂いている姿を。なかなか難しい…。

いずれの説も科学的根拠が乏しく、多くの支持を集めているとは言えません。

では、他のアンキロポレクス類はどのような“親指”（第I指）をしているのでしょうか？実は、この第I指はあまり発見されていません。同じようなスパイク状の爪（末節骨）を持つ種としては、イグアノドンと同じ場所で発見されているマンテリサウルスや中国内モンゴル自治区の前期白亜紀のパヤンヌーロサウルス、遼寧省のジンゾウサウルスなどが知られています。また、進化的な種であるプロバウトロサウルスでは、若干扁平な細長い形になり、やがてハドロサウルス類になるとこの親指は消失してしまいます。

フクイサウルスではどうでしょう？近年の発掘調査により、手の甲（中手



フクイサウルスの右手
(手の甲と指の骨の一部は欠損)

骨）や指（指骨）がまとまって発見され、初めて手の形が明らかになりました（第V指は未発見）。手の形は、他のアンキロポレクス類と類似し、ある程度体重を支えることができる作りです。しかし、親指はイグアノドンとは異なり、細長い形をしていることがわかりました。これを武器として使えたのでしょうか？今後、研究を進めたいと思います。



イグアノドン類(左)の反撃を受けるアロサウルス類(右) (コラート化石博物館)

さあ行こう
生まれ変わった
恐竜博物館へ



2023夏
REBORN!

冒険と研究の扉をあけよう
生まれ変わった恐竜博物館で

